

児童生徒指導体制の更なる充実に向けて！

《平成 28 年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」（速報値）の結果について ～文部科学省～》

10 月 26 日、文部科学省は、小・中・高等学校・特別支援学校の児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査の結果をとりまとめ、公表した。特にいじめの認知件数（特別支援学校を含む）は、323,808 件（前年度 225,132 件）と、前年度より 98,676 件増加している。

児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査の概要（全日教連要約・抜粋）

いじめの発見のきっかけ

区分	件数
アンケート調査等	167,169
本人からの訴え	58,493
学級担任や教職員が発見	46,319
保護者からの訴え	34,289

いじめられた児童生徒の主な相談の状況

区分	件数
学級担任や教職員に相談	289,012
保護者や家族等に相談	77,268
スクールカウンセラー（SC）等の相談員に相談	7,350

※ 複数回答可

- いじめの状況の多くはアンケート調査等で発見されている。
- いじめを受けた当該児童生徒の多くは、学級担任等教職員に相談している。

いじめの様態

区分	件数
冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる	202,435
軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする	69,899
仲間外れ、集団による無視をされる	49,430
嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする	23,455
パソコンや携帯電話等で、誹謗・中傷や嫌なことをされる	10,783

- 言葉によるいじめが過半数となっている（62.5%）。
- パソコン等を用いる等、学校生活以外の場面で起こるケースも増加傾向にある。

詳しくは、

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/29/10/_icsFiles/afieldfile/2017/10/26/1397646_001.pdf
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/29/10/_icsFiles/afieldfile/2017/10/26/1397646_002.pdf

今回の調査結果を受け林文部科学大臣は、いじめ問題の積極的な認知の取組が、認知件数増加につながった一方、暴力行為や小・中学校の不登校の増加は引き続き教育上の大きな課題であると明言した。また、児童生徒がいじめの相談の多くを、学級担任や養護教諭等の学級担任以外の教職員に相談していることや、アンケート調査等を用いることが具体的ないじめの様態を把握するきっかけになっていることが示された。

いじめ問題においては、認知件数の増加に伴い、それに対応するためにいじめの解消に向けた実効性のある取組を更に推進する必要がある。

また、多くの人に関わることで未然にいじめを防いだり、早期解決を図ったりできるように、学校現場には児童生徒の実態を把握し、対応できる多くの人員を配置することが重要である。特に SC においては、「チーム学校」の一員として現場で十分機能できるだけの人員配置等の安定した体制整備がなされることで、担任等と協力しながら常に児童生徒の心のケアに密に関わることができると考える。

全日教連は、教職員や外部人材等がそれぞれに違う視点から児童生徒を見守り、適切に対応することで、児童生徒の健やかな成長が図られると考える。そのためにまずは十分な教員の人材確保のため、基礎定数の改善や加配定数の拡充を前提とした外部人材の配置等について、学校現場の声を生かしながら、国に対し引き続き強く訴えていく。